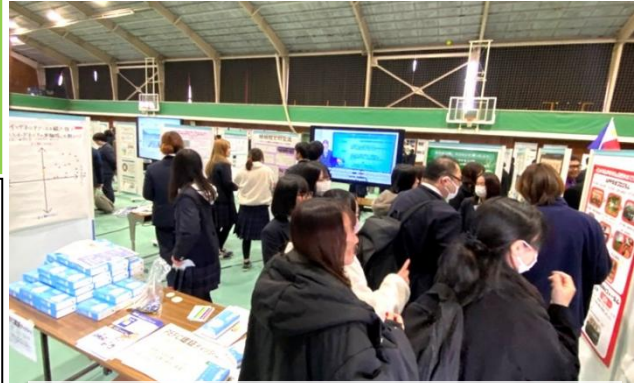


# APP 環境新聞

発行日 2026年3月31日  
 発行者 エイピーピー・ジャパン株式会社 (APP ジャパン)  
 ユニバーサル・ペーパー株式会社 (UP)



APPは持続可能な開発目標 (SDGs)を支援しています。



筑坂高校 総合学科研究大会における発表ブース【裏面参照】

## 森の再生プロジェクト ~いっしょにSDGsに取り組もう!~ 活動報告<14>

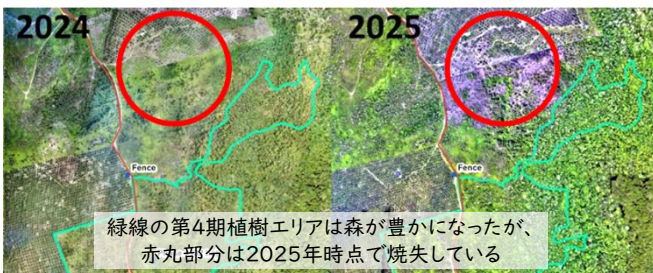
エイピーピー・ジャパン株式会社(以下、APPジャパン)とユニバーサル・ペーパー株式会社(以下、UP)は、売上の一部を寄付してインドネシアの荒廃した自然林を再生する『森の再生プロジェクト~いっしょにSDGsに取り組もう!~』(以下、森P)を行っています。

2025年9月から10月にかけて、森Pの活動拠点であるインドネシア・リアウ州のスラン・シャリム・ハシム大森林公園(SSH)の第4期植樹エリアにおいてメンテナンス作業を実施しました。メンテナンス作業では、植樹された樹木の周辺に生い茂った低木やシダ類を剪定し、枯れてしまった苗木の植替えを行います。今回も対象エリアにおいて、9月には657本、10月には550本、合計で1,207本の苗木の植え替えを完了しています。

今回新たに植えた苗木には、ドリアン、マトア、ジャックフルーツ、マホガニー、ジリンマメなど、協力した地域住民がいずれその実を一部収穫できるような果物などを含む固有種を採用しました。また、2026年2月からは第5期エリアのメンテナンスにも着手しています。

2022年に植樹を開始した第4期エリアは、徐々に豊かな森として成長を始めています。しかし昨年、このエリアに侵入した地域住民による違法行為により、植えた苗の一部が焼失してしまいました。彼らは、都市部の富裕層からお金をもらって州政府が管理する森林を焼き払い、その上でパーム油の実がなるヤシの木を植林するのです。

生活の為とは言え、森に火を付ける行為は法律に反するだけでなく、大量のCO2を放出し、その森に生息する動植物や周辺の他の地域住民の生活をも脅かしかねない深刻な問題です。こうした社会課題を解決するためには、環境保全と貧困の解消を同時に行う必要があります。地域住民への啓蒙活動など地道な取り組みが続いています。(次号に続く)



緑線の第4期植樹エリアは森が豊かになったが、赤丸部分は2025年時点で焼失している

## ここにも森プロゴ/感謝状贈呈



ミズノ株式会社様  
「野球用グリップテープ」

フォーレスト株式会社  
専務取締役 信川様(左)



## 森P 進捗情報



## APP環境ツアーのご案内

昨年実施したインドネシア視察ツアーを、今年も実施いたします。

日程:2026年6月14日(日)~18(木)  
 費用:お一人様30~35万円目安

- APPが取り組む森林保護
  - 植林~製紙までの一貫生産工程
  - 「森の再生プロジェクト」記念植樹
- ご興味のある方は、営業担当まで。



昨年のツアーの様子



## 協賛パートナー

プロジェクトの輪はさらに広がってきています。  
 このプロジェクトは対象製品をご購入いただいた皆様全員がパートナーです。



## 独自の森林再生活動支援を行っているパートナー

### アスクル株式会社様

コピー用紙のふるさとであるインドネシアの森を守る活動を行っています。



## 「今を見つめ、未来をひらく」筑坂高校 第29回総合学科研究大会開催!

2026年2月13日・14日、筑波大学附属坂戸高等学校(以下、筑坂高校)において『第29回総合学科研究大会』が開催されました。筑坂高校では、30年前に国内高等学校の総合学科の初発校として探究活動を中心に据えた柔軟なカリキュラムが構築され、生徒一人ひとりの興味・関心に応じた学びに寄り添ってきた歴史があります。

今年は「今を見つめ、未来をひらく～総合学科から始まるこれからの高校教育」が研究課題とされ、インドネシア・タイ・フィリピンからの国際教育実習生の受け入れ、SGH(スーパー・グローバル・ハイスクール)およびWWL(ワールド・ワイド・ラーニング グローバル人材育成強化型)事業展開を通じて、世界と地域を繋ぐ多様な価値観と協働しながら、より良い社会を創造していく「グローバル共生教育」を教育の柱の一つと示されています。APPジャパンの社員も連携先企業の一つとして、生徒の皆様によるインドネシア研修ブースの出展を手伝いました。

実際の製品を手にしながらか、この「紙」がどのような環境や工程を通じて日本市場に届いているのか、生徒の皆様自らのインドネシア滞在を通じた体験発表や、PEFC認証および森Pの紹介が活発に行われました。インドネシアへの関心を高めていただき、今夏の植樹ツアーにご参加願えるよう、社員も生徒の皆様との輪に仲間入りし交流を深める機会となりました。



### APP役員インタビュー「日経ESG」に掲載

『日経 ESG』2026年4月号にAPPサステナビリティ担当役員エリム・スリタバ氏のインタビューが掲載されました。

2030年を目標とする「持続可能性ロードマップ・ビジョン2030」の進捗状況や、昨年9月に発表された「フォレストポジティブ方針」について、さらに日本独自の取組みである森Pについても言及しています。<https://x.gd/RdiZb>



エリム・スリタバ氏

### 大学教職課程用教科書に事例掲載



2026年3月25日、大学教職課程用教科書『総合的な学習/探究の時間とESD』(学文社)が発刊されました。

その中で、筑坂高校主幹教諭である建元先生が執筆された、APPとの協働による高校生、大学生向けのインドネシア研修に関する原稿が掲載されました。<https://x.gd/w1nit>

### 2026年も企業訪問受け入れています!

今年も全国の学校による企業訪問プログラムを実施しており、6月中旬までにすでに15校の受け入れが決定しております。

今年1月にプログラムへご参加いただいた足立区立千寿桜堤中学校の皆様には、APPグループのSDGsへの取り組みや森P、そして企業で働くことについて学んでいただきました。

3月上旬には、学習発表会が千寿桜堤中学校で開催され、APPジャパンの社員もご招待いただきました。当日は、保護者も見学されるなかで生徒の皆様による発表が行われ、完成度が高い発表資料を用意して皆様が自信を持って発表している姿が印象的でした。



学習発表会の様子

### 展示会に参加しました!

今年1月開催の「文具ユニオン展示会」にて、西ノ宮株式会社様の展示スペースをお借りして森P対象製品であるホワイトコピー用紙を紹介しました。



西ノ宮様様のブース



UPのブース

同月28・29日に開催された「セコーグループ春の展示会」にはUPが出展し、ブースでは「Hello」ティッシュ、「Livi」ペーパータオルを陳列し、さらに森Pの紹介パネルも展示しました。

また、同会場の株式会社カルタス様のブースでは、森P対象製品「ビズーレ」ペーパータオルも展示いただきました。

良い紹介機会となり感謝申し上げます。

### APPジャパン/UP社員の声～森Pツアー参加者より～

2024年、2025年と森Pに賛同していただいたお客様の現地視察ツアーに同行させていただきました。実際に現地へ行って学ぶまでは、正直SDGsは他人事でした。現場で見た景色や数々の体験に感動し、まさに「百聞は一見に如かず」が当てはまるツアーでした。

インドネシアでは気候変動による異常気象や経済事情による焼き畑により森林火災が発生しています。その対策として、APPは人工衛星を活用した24時間監視のほか、焼き畑農業からの転換を促す地域住民支援プログラムを展開しています。

更にクローン技術による苗木管理から植林、伐採から工場搬入に至るまで、紙パルプ産業のトレーサビリティ管理も自身の目で確認できました。

お客様の「環境問題を自分事として捉え、次世代へ繋ぐ為に仕事と生活をする必要があると実感した」との声に、私も強く共感しました。



筆者と森Pスタッフの植樹記念撮影



### 森の再生プロジェクト～いっしょにSDGsに取り組みよう!～ 参加方法

1. プロジェクトの対象製品を購入する
2. 個人・法人等で寄付をお考えの方  
([sustainability@appj.co.jp](mailto:sustainability@appj.co.jp) までお問い合わせください)

### APP 環境新聞バックナンバー

こちらよりご覧いただけます

<http://www.app-j.com/topics/1673.html>